

会議議事録

会議名	平成 30 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 30 年 7 月 18 日 (水) 13:00～15:00
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	① 企業等委員：入野 豊委員 (非営利活動法人大田区介護支援専門員連絡会副理事長)、丸山泰一委員 (社会福祉法人池上長寿園事業担当次長兼池上統括事業所長) (計 2 名) ② 本校委員：橋本正樹 (校長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、熊谷 崇 (介護福祉科教員) (計 3 名) ③ オブザーバー：中嶋純也 (介護福祉科教員)、武石稔弘 (医療秘書科教員) (計 2 名) ④ 事務局：松本晋圭、川内靖美 ⑤ 記録：小田真理子 (参加者合計 10 名)
欠席者	宮下明久 (事務局長)
配付資料	① 事前送付：□資料 1：平成 30 年度福祉分野教育課程編成委員会名簿、□資料 2：平成 29 年度第 2 回福祉分野教育課程編成委員会議事録、□資料 3：前回委員会以降の主な経過報告 3-1：平成 30 年度校務分掌、3-2：平成 30 年度学事日程、3-3：平成 30 年度クラス担任一覧、3-4：平成 30 年度就職先一覧、3-5：平成 30 年度 2 年次「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュール、3-6：平成 30 年度オープンキャンパス日程表、□資料 4：平成 30 年度重点目標と達成するための計画・方法、□資料 5：平成 30 年度学科運営計画、□資料 6：平成 30 年度介護実習の予定、□資料 7：平成 30 年度教員研修計画 ① 当日配付：□介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳに関して、□実習日誌の書式、□平成 30 年度講義要項、□平成 30 年度学生生活ガイド、□2018Challenge 就職活動ノート、□平成 31 年度入学案内書・募集要項
委員長	橋本校長
議題等	1. 今年度委員の確認及び本日出席者の紹介 事務局より、資料 1 に基づき委員の確認が行われた。本日は事務局長の宮下が欠席、記録担当として小田が出席、委員会事務局担当に松本が加わったことについて、報告が行われた。 2. 校長挨拶 平成 30 年度からの 18 歳人口の急減期に対応するため既存学科の改廃、外国人を対象とした新たな教育の可能性について検討してきた。18 歳人口は東京周辺ではここ数年は減らないと言われているが、全国規模で急減期を迎えている。介護福祉科の高校新卒者を対象とした学生募集の状況は相変わらず厳しい。一方、介護福祉士を外国人の在留資格とする法律改正を追い風にして、本校においては今年度から外国人留学生の受け入れを開始した。介護福祉科においては次の時代に向けての新たな動きを具体化していく年になる。

学校としても教育の可視化、質保証という観点から効果的な情報公開を行い、2-40プロジェクトに示したとおり、選ばれる学校 - プレステージスクールを目指す。

教育課程編成委員会は今年度も2回の開催を予定している。引き続き皆様には本校の福祉系教育活動について貴重なご意見を賜りたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局川内）

前回議事録（資料2）について、確認、了承された。

4. 平成29年度第2回委員会以降の活動報告等について（説明者：橋本校長、岩上学科長、熊谷教員）

資料3に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より就職状況、オープンキャンパス等について質問、意見があり、担当から説明、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 平成30年度の重点目標について（説明者：橋本校長）

資料4に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より留学生に関する質問、学び直しの教育について意見があり、担当から説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

6. 平成30年度の学科教育と学科運営について

(1) 平成30年度学科運営計画（説明者：岩上学科長）

資料5、6に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より、障害者施設見学について意見があり、担当から説明、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

(2) 平成30年度介護実習の予定（説明者：熊谷委員）

資料6に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(3) 介護実習 実習日誌の書式について（説明者：熊谷委員）

当日配付資料（旧書式・新書式）に基づき、実習日誌の見直しの趣旨について説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より、書式内容等について意見があり、担当及び岩上学科長から説明、意見交換が行われた。

7. 平成30年度教員研修について（説明者：岩上学科長）

資料7に基づき研修計画・実績の説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より質問があり、担当から説明、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他

事務局より、次回は2月ごろを予定している。11月中に各委員の予定をお伺いして日程調整を行うとの事務連絡が行われた。

	最後に、橋本校長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。
--	--

以上

平成 30 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 平成 29 年度第 2 回委員会以降の活動報告等について

○橋本校長、岩上学科長、熊谷教員より、担当する項目について、資料 3（別添 1～6）に基づき平成 29 年度第 2 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

1. 平成 30 年度の組織運営関連

- ・平成 30 年度校務分掌（別添 3-1）
- ・平成 30 年度学事日程（別添 3-2）
- ・平成 30 年度クラス担任一覧（別添 3-3）

○橋本校長より、平成 30 年度校務分掌について、以下の補足説明が行われた。

- ・介護福祉科留学生教育拡大準備部会を設置し進行しているところである。

○岩上学科長より、平成 30 年度クラス担任一覧について、以下の補足説明が行われた。

- ・2 年生の担任に中嶋純也が加わった。

2. 学生の状況関連

（1）平成 29 年度就職状況の報告（別添 3-4）

○岩上学科長より、平成 29 年度就職先一覧について説明が行われた。

（2）ワセダキャリアサポートプログラム（別添 3-5）

- ・1 年次の後期から開始しており、2 年次前期に 7 回目以降を実施する。

3. 学生募集関連

- ・平成 30 年度オープンキャンパス日程表（別添 3-6）

○岩上学科長より、平成 30 年度オープンキャンパス日程表について説明が行われた。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

①就職について

質問・意見等	回答等
☐ 就職解禁の 6 月 1 日時点での内定者はいるか。	☐ 内定者はまだいない。現在は履歴書作成などの準備中である。
☐ 就職のピークはいつごろか。	☐ 夏休み中、実習後、国家試験後と、学生の活動希望時期が分かれている。早く決めたいという学生には、見学をしてからゆっくり考えるようにと伝えている。

②募集について

質問・意見等	回答等
☐ オープンキャンパス参加者の男女比はどうか。	☐ 女性が多い。
☐ 出願は単願で来るのか。	☐ 1 校か 2 校、多くて 3 校ぐらいを見学して決めているようである。

□高校生は何によって学校を最終的に選んでいるか。	□オープンキャンパスに参加し、教員と学生の距離感、雰囲気がいいという理由で選ぶ傾向がある。 □高校教員の影響が大きい。高校との信頼関係を築いており、口コミ、ネットの影響もある。
--------------------------	---

5. 平成30年度の重点目標について（別添4）

○橋本校長より、以下の説明が行われた。

- ・今年度の重点目標は、「学び直しの教育プログラムの開発」と「ビジョンの共有とアクションプラン」の2項目が新規である。教員研修は順調に推移し、退学防止は目標を達成したため、重点目標からは外した。
- ・留学生受け入れは他校と協力しながら進めている。外国人の中でリーダーとなれる人材の育成を目標にしている。

① TPCの育成と強化

- ・TPC育成と強化は2-40プロジェクトで示しているもので、引き続き具体化する試みを行う。

② 学び直しの教育プログラムの開発

- ・高校新卒以外を対象として、土日や夜間の時間帯を活用した新たな専門教育課程の準備を進めている。

③ ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・学校の問題を教員と事務職員が共有し、校長がリーダーシップをとりながら会議等を進めていく。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
□日本介護福祉士養成施設協会も留学生の方針を打ち出しているのか。	□外国人受け入れは打ち出している。
□学び直しのプログラムは、学ぶ側からすれば時間的選択肢が増えるのでよいことだと思う。 教員の労働強化につながらないようにすること、明るい未来があるという共通認識を持つことも大事だと思う。	□教員の働き方については、得意な分野を生かして仕事を分担するというスタンスをとっている。 単に仕事を任せるということはない。 eラーニングについても検討する。

6. 平成30年度の学科教育と学科運営について

（1）平成30年度学科運営計画（別添5）

○岩上委員より、以下の報告が行われた。

（マナー指導）

- ・朝の挨拶当番は、今年度から教員だけでなく学科代表者の学生も加わっている。社会人としてのマナー、接遇なども、挨拶当番を通して習得できればと思っている。

（カリキュラム）

- ・平成31年度から介護福祉士養成におけるカリキュラム変更が、まず大学で始まる。養成校は平成33年度からになったため大学の動向を参考にしながらカリキュラムを検討する。
- ・「人間関係とコミュニケーション」は、介護の質を高めるため30時間から60時間に変更される。
- ・「日本文化論」は文化、マナー認識など留学生への効果が得られている。

(留学生)

- ・今年度入学した留学生はN2レベルの能力があるので、今のところ特別な配慮がなくても授業にはついていけるが、定期試験の結果によってはサポート体制を強化していく。
- ・授業の進め方は、ゆっくり話す、簡単な言葉に置きかえる、資料は見やすく要点だけをまとめるという点で工夫している。テキストは定期試験の結果を見て検討する。
- ・留学生は日本人の学生よりも熱心で積極的である。日本人が留学生の熱心さに引っ張られているところもあり、お互いにより刺激になっている。

(見学実習)

- ・1年生は5月に、小規模多機能、特養、グループホーム、ショートステイ、デイサービスなど、一つの法人内で何か所か経験できるように見学実習を行っている。
- ・2年生は6月に、重度の心身障害者施設に見学実習に行っている。障害者施設に興味を持っている学生もいるため、今年度新たに実施した。
- ・1年生の3月の医療的ケア病院見学実習は昨年度に引き続き実施する。
- ・医療的ケアの実地研修で承諾が得られた病院での31年度の実習に向け、申請の準備をしている。

(検定対応)

- ・介護福祉事務検定3級受験は、昨年度までは11月の1回としていたが、今年度は6月に3級、11月は3級と2級を計画に入れている。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
☐ 障害者施設を見学するのはいいと思う。	☐ 重症心身障害者施設は、見学はよいが実習施設としての開拓は難しい。
☐ 地域包括ケアの次に地域共生社会が来るので障害者を見据えていかなければならないと思う。 要介護度の高い人だけをスポットすると、介護福祉士の資格を持っても一部しかできない、知らないということがあるので、学生のうちに重症心身障害者施設や病院、就労支援施設などいろいろなところに行ったほうがいい。	☐ 今、学生は障害者施設に行っている。学生は重症心身障害者施設のような施設のイメージは持っていないので、その辺も考えながら実習先として障害者施設をふやしていければいいと思っている。
☐ 介護状態になる前の段階は教育課程に入っているか。	☐ その点を目的としたわけではないが、第1段階の実習前に高齢者センターを見学するチャンスがあった。まさに要介護以前の、地域に開放されたサークル活動の拠点になっているところで、学生の認識にも役立った。

☐ 地域共生社会の中にあって、ケアマネジャーは3障害と言われる方々も含めてマネジメントしていかなければいけない状況になってくる。 学生のうちから、障害が多岐にわたること、障害の特性、言葉を学ぶ必要がある。	☐ 国家試験も障害に関する問題が増えているという印象がある。介護福祉士に求められているものが非常に多いが、教育期間的に厳しい。
--	--

(2) 平成30年度介護実習の予定(別添6)

○熊谷委員より、以下の説明が行われた。

- ・介護福祉士の実習は、指定規則設置運営指針で2種類ある。指定規則設置運営指針の介護実習Ⅰは本校のカリキュラムでは介護実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、指定規則設置運営指針の介護実習Ⅱは介護実習Ⅲとなっている。
- ・介護実習Ⅲは介護過程の展開をしていくため、実習指導者講習会の修了者であること、指導マニュアルやサービス提供の記録が整備されていること、施設職員の介護福祉士の割合が3割以上といった要件がある。介護実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳについては、介護保険法上の基準を満たしていれば実習できるとされている。
- ・介護実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳについて、資料「介護実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳに関して」をもとに説明が行われた。
- ・5月18日に事前オリエンテーションをかねて実習先の見学会を実施した。多様なサービスがあることがわかったという学生の反応があり、就職先の選択肢が増えたのではないかと考えている。

(3) 介護実習 実習日誌の書式について(実習日誌新書式・旧書式)

○熊谷委員より、以下の説明が行われた。

- ・旧書式は文章量が多くなり、大変な部分があった。新書式は文章量を減らす形で、実習時間内の1時間で実習日誌を書き、その日のうちに提出するという方法をとった。
- ・旧書式の「目標に対して学んだこと」は小論文を書くイメージで、内容が濃い。新書式はシンプルな形に変えた。
- ・実際に新書式を使ってみたところ、1時間で書き終える学生がいる一方、留学生は苦勞したという印象がある。実習先に残って書いたという話も聞いている。
- ・2年生は旧書式で実施していこうと思っているが、1年生については検討段階である。
- ・新書式では個別的、具体的なところが得られにくい。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
☐ 書く側にとっては目標と指導を受けた内容の切り分けが難しいのではないかと。目標に対しては学んだことだけで大丈夫だと思う。	☐ ご意見として承った。
☐ 現場での記録はシンプルなのか。	☐ シンプルである。
☐ 現場においては介護記録のIC化とか記録は要らないと聞いているが、介護過程の記録をチェックなどで簡単にできてしまっているのか。 学校でやったことが頭に入っていれば簡略化してもいいが、簡略化だけになってしまうという	☐ 現場に出ていく中で簡略化されていくのはいいと思うが、学びの場では根拠は何かということが大切ではないか。 ☐ 客観的情報と、主観的情報がわかった上で簡略

いろな意味で危険だと思う。	化するのはいい。教育段階で簡略化から入ってしまっているものかと思うが、旧書式は留学生にとって厳しい。 □現場と学校は切り離して考えたほうがいいかと思う。就職したときにやっただけのことがちゃんとできる。旧書式のような記入は学生のうちにしかできないことかと思うが、留学生には難しい。 □I C化するとチェックだけで何も考えなくなり、ケースを見なくなる。 □学生のときに成果が得られなくても、旧書式を記入することによって将来的に何かに気づけるようにしたい。できる、できないは別にして、やってみることは大事だと思う。
----------------------	--

7. 教員研修について

○岩上学科長より、平成 30 年度教員研修計画・実績について報告が行われた。(別添 7)

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
□留学生の授業に臨む姿勢はどうだったか。	□一生懸命に学んでいた。マナーの面では、常にスマホを使う環境の日本語学校から専門学校に入学した場合、その習慣を切りかえることは難しいと感じる。

8. その他

○本日のまとめとして橋本校長より以下の発言があった。

- ・タブレットを使えるようにするなど教育環境については整備していかなければならないところがある。
- ・今、日本は介護人材が不足しているが、高齢者介護の部分では将来的に日本は人が余ってくるのではないかという考え方もある。他国での介護人材がより必要になると、現在の若者たちは何十年後かには海外で仕事をしなければいけなくなるかもしれない。また実際に現場で外国人と一緒に働くことを考えた場合、一緒に学んだほうがいいのではないかという試行錯誤の状況がある。
- ・養成施設で学んだ外国人は、記述の記録が必要になる面があるかもしれない。
- ・いろいろと状況が変化していく中、その時々にご報告させていただき、ご意見、アドバイスをいただきたいと思っている。

以上